

政策 04

子供の弱視の見直し日本一の港区から 機械検査による弱視撲滅の 国家政策に繋がりました。



東京都の全ての自治体で3歳児健診の受診率が万年最下位という不名誉な記録を更新し続けているのが港区です。

3歳児健診の多岐にわたる項目の中で、とりわけ眼科検診は、弱視の子供にとって治せるかどうかの分岐点になる重要な検査。

弱視とは5%くらいの子供に可能性があるという発達障害の一種。

3歳で発見して治療を開始できれば9割以上の子供が治るのに対し、5歳の小学校入学検診で発見されると、治る確率は1割程度まで下がる。

3歳の弱視検査は子供にとって一生を左右する重要なものです。

僕が10年にわたって取り組んできた弱視の問題。

3歳児健診の視覚検査は、親が自宅で簡易な紙のキットを用いて検査して、親が異常という判断をした子供だけ専門家が健診を行うというのが今の仕組みです。

しかし、港区のデータを調べたところ、後で弱視と分かった子供の50%は、親が行った検査で「異常なし」に丸をつけられていて、医師の検診から見直されて



こんなチャチな面を使って親に検査させるから、大量に弱視の検査漏れが発生する。

いた事が分かったことから、僕は全児童の機械による漏れのない健診体制を

訴え続けてきました。

当時、まだ発売されたばかりの最新のアメリカ製の検査機器

「スポットビジョンスクリーナー」を

120万円で自費購入して、多くの保育園に出向き、

自ら検査することで知見を積み

ながら、必要性和効果を訴え続けてきました。

日本人には向かない。知見が少ない。など、ネガティブな話を雨のように浴びながらの活動でした。

時間がかかりましたが、港区では、令和3年から3歳児健診の全受診者へのスポットビジョンスクリーナーを用いた検診がスタートし、その検診データは弱視の発見率が100%近いことを証明するものでした。

そして、ついに令和5年度から、厚生労働省が全国の自治体に普及させるために、50%の補助金を出すこと、効果的な検査方法のマニュアル作りを進めていくことが決まりました。応援いただいた日本維新の会の仲間である石井苗子参議院議員には心より感謝申し上げます。

これから、全国の子供が、確実な弱視克服の機会を得られるようになります。



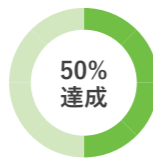
1秒で両眼が測定できる最新医療機！

その他の

政策

政策 05

東京港を泳ぎたくなる水質にする！
下水施設改善政策



政策 06

芝浦アイランドにモノレールの駅を作る政策



政策 07

震災時に11日間発電し続けられる防災船を係留する政策



11日間も連続発電できる防災船「侍」を作りました



※公職選挙法の規定に基づき選挙人名簿により送付させていただきます。



港区議会議員

えのもと 茂

年間120日も港区の海に放流されている、おぞましい大量の未浄化汚水の放流を止めたい、それが政治家を志したきっかけでした。

そして、いつ発生するかも知れない震災に対し、想定される7日間の停電、8台に1台の割合で発生する可能性のあるエレベーターの閉じ込め事故。独自の発想で、都市型防災に提言をしております。

これからも、美しい海を取り戻し、震災に強い街づくりに取り組んで参ります。

引き続きのご支援よろしくお願ひ申し上げます。

区政報告レポート 令和5年2月発行
〒105-8851 東京都港区芝公園1-5-25
港区議会 日本維新の会



カルガモの巣づくり



水辺フェスタ



海洋少年団



運河クルーズ

全国に報道される「榎本式」防災メソッド 都市防災の弱点を補う、逆転の発想！

今年は関東大震災から100年目の年！
港区を日本で最も震災に強い街にするための政策を進めます。
引き続き、ご支援賜れますよう、お願ひ申し上げます。

榎本茂が考えた防災政策や環境活動は、NHK ニュースやビートたけしのTVタックル、サタデーステーション、Yahoo ニュースなど多くのメディアで取り上げられました。



- 政策1 もうエレベーターの閉じ込めは怖くない！
- 政策2 日本初の停電対策の取り組み
- 政策3 震災時には肉を焼いて元気を出そう！
- 政策4 子供の弱視撲滅の国家政策へ



お台場の海はなぜ汚い？
水質を知り尽くす港区議・榎本茂氏が警鐘！

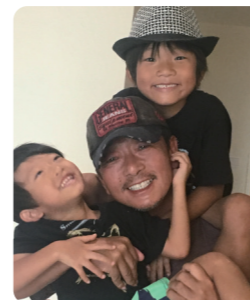
港区議会議員
榎本茂

お台場・水質問題
区政インタビュー

プロフィール

1959年生まれ。

大学を卒業後、イギリスの国営企業に入社してジャガー車の販売に携わり、英国圏外の世界No.1セールスとして表彰された伝説の営業マン。40歳からは釣りのプロになり、世界最大の釣具メーカーから自身の名を冠した釣具のシリーズが売られ、TV番組も持っていた。



趣味は子育て

水辺を活動拠点とするNPO海塾を創設し、カルガモの巣づくりプロジェクト、港区水辺フェスタ地域対抗ゴムボートレースなど区の代表的な水辺事業を立ち上げると共に、芝浦にて小型船舶免許の学校を経営しながら、15年に渡って芝浦小、港南小で船を使った運河学習を行なってきた。また、海洋少年団を立ち上げ、親子で楽しむ水辺の学習環境学習も行なっている。

TV番組の水中撮影を行う中で、港区の海の水質問題に気付き、下水によって海が汚れるメカニズムを国の研究機関と共同で解明するとともに、東京大学の協力を受け水質検査を続け、行政に改善を促している。



サラリーマン時代
期、12年議員活動を
している。

二人の男の子を持つ四大家族。
趣味はキャンプと焚き火。



釣りのプロ時代

平成23年、政治の世界に入る決心をする。港区議会議員選挙において10位初当選、以降3

政策

01

8台に1台で 閉じ込めが発生?! 全てのマンションで1時間以内の閉じ込め対応を!

30%
予算獲得

もうエレベーターの閉じ込めは怖くない!

東京都が新たに発表した首都直下地震の被害想定では、エレベーター被害について「強い揺れや停電等に伴い、最大約2.2万台のエレベーターが非常停止し、多数の閉じ込めが発生する」と書かれています。東京には16万6千台のエレベーターがありますので、運悪く震災時にエレベーターに乗っていたら、8台に1台は閉じ込められてしまう可能性があるということなのです。

もし、震災時に停電すると、エレベーター会社との通信も途絶えることとなります。

エレベーターに閉じ込められ、真っ暗な密室で何時間も、もしかすると何日間も耐えなければいけないかも知れません。

想像してみてください。皆さんは耐えられますか?

簡易トイレや乾パン、水が入った防災キャビネットが設置されているのは安心ですか?

僕は耐えられません。誰が助けてくれるのか?

今まで、エレベーターの扉を開ける作業は危険で、機種ごとの専門知識が必要だから、そのエレベーターの管理会社だけが作業を行えるというのが常識でした。

しかし、それは嘘なのです。

エレベーターは鍵さえあれば、外から、誰でも、簡単に、扉を開けることができるのです。

それではなぜ、管理人や住民が救出作業をできないのか?

その理由は、事故が発生した時の責任問題になるからです。

誰も責任を負いたくないから、救出は専門家に任せるとなっている。

僕は考えました。

扉を開けるとシャフト内に落下する危険があるという理屈なら、開くのは10cmだけというルールを設けることで、住民が手動で開けられる訓練をすることはできないだろうか?

真っ暗闇の密室に何日間も閉じ込められる恐怖も、10cmだけ扉を開き、「大丈夫か?」と声がけできれば、その恐怖は大きく軽減できると僕は議会で訴えました。

僕の粘り勝ち! ついに扉が開きました!

令和5年! 港区で、日本初! となる行政が主催し、住民が行うエレベーターの閉じ込め対策訓練を実施することになりました。

専門会社が住民に講習を行い、エレベーターと床の段差が60cm以内なら救出もできます!

エレベーターの扉の鍵は管理人室で保管し、講習を受けた住民だけが持ち出せる仕組み。

予算をつけてくれた港区防災課の職員に感謝します。

この10cmは、わずか10cmですが、僕が10年の年月をかけて、こじ開けた希望の扉です。

今後、全てのマンションで、エレベーターの閉じ込め対応を1時間以内に実施できる体制作りを目指します。区民の皆様のご理解と、ご賛同を頂きますこと願っております。



全てのマンションで
1時間以内の閉じ込め対応を!



病院

病院はもっと悲惨です。

停電すると手術室は使えず、全ての医療機器はストップ、今はカルテが電子化されているため投薬もできません。

公表されていませんが電力が途絶えた病院での死亡想定人数は、発災後3日間だけでベッド数の半数近くに上るとも言われています。これは都内の災害拠点病院だけで1万人が亡くなる想定です。



自家発電の限界

消防法では、停電に備えて病院やマンションには自家発電装置の設置が義務付けられています。

しかし、消防法の制約で、発電燃料は病院で3日分、マンションでは3~6時間分しか備蓄されていません。

僕は考えました。

非常用発電機はある。しかし、燃料がない。

どこから燃料を調達するか?

ガソリンスタンドには少量しか置いていません。

僕は閃きました。港区は「港」の区です。

東京の海上には莫大な量の燃料があったのです。

政策

03

震災時には肉を焼いて 元気を出そう!

20%
達成

震災時の非常食といったら乾パンやアルファ米。

ロウソクの灯りの下で、乾パン食べる姿を想像しただけで悲しくなります。

僕は考えました。

震災時には、ステーキを焼いてワインを飲んで、明日への希望を語りたい。

それでは、お肉はどこにある?

港区の芝浦や港南には数多くの冷凍倉庫が立ち並んでいます。

また、品川の駅前には食肉市場があり、毎日1000頭の牛から400トンが精肉されています。

僕は全ての冷凍倉庫にアンケートを持って回りました。

1) 倉庫には何を保管していますか?

2) どのくらいの量を保管していますか?

3) 停電に備えた設備はありますか?

答えは驚くものでした。

港区内だけで、なんと牛肉が1000トン以上もあったのです。

そして、非常用発電機が付いている倉庫はゼロでした。つまり、停電すると夏季は2時間ほどで肉は商品価値を失い廃棄処分となる。1000トンもの肉は震災時において莫大な量のゴミになってしまうことが分かったのです。

そこで、僕は考えました。



運河沿いの巨大な冷凍倉庫には肉、魚、野菜が
何百トンも眠っている!

区民には2万円もする防災ラジオではなく、バーベキューセットを配り、毎年行う防災訓練では、みんなが自分で肉を焼く訓練が必要だ!

震災時に倉庫の肉がゴミになれば、預けた荷主も、預かった倉庫業者も、保険会社も損をする。だから、荷主が倉庫に肉を預ける時に、震災時に行政が最低額を保証して区民に無償提供できる協定を結ぶようにするとともに、食品の産業廃棄物の処理費用を震災後1ヶ月ほどは高額にするなど懲罰的な課税をする。皆が震災時にステーキ焼いて食べられる政策を進めます。

政策

02

日本初の停電対策の取り組み。

非常用発電機燃料を海から
調達する仕組みを作りました!

70%
燃料確保



マンション

高層マンションに住む人は、どこに避難するか知っていますか? 在宅避難と言って、7日もの間、部屋から出ないことが決められています。

なぜ7日間なのか?

それは、停電の想定日数が7日だからです。

東京の電気は、東京湾などにある14の火力発電所で作っていますが、震災時には火力発電所も同時に被災するため、電力が復旧するに

は7日間必要だと想定されています。

停電すると、当たり前ですが、マンションの部屋は真っ暗闇です。エレベーターが止まり、火事が発生しても火災報知器が鳴らず、消防ポンプが作動しないので消火もできません。館内放送も止まるので避難誘導もできません。

火事になっても分からない、消せない、避難できない。

そんな建物の中に7日も居ると言われて、素直にハイと僕は言えません。

この条例が作られる時から、僕は停電したマンションに住み続けるのは危険だと言いつけてきました。